

平成26年度 教育課程活動にかかわる現状と課題

部長 松崎 一昭

1 教育課程活動の動向

【上越地区】

糸魚川市教育研究会では、糸魚川市子ども一貫教育に基づき、特に「ジオパーク学習の充実」に市内小・中・高校間による学習交流会が展開されている。上越市では市教育委員会が推進する上越カリキュラムの活用を受けモデル校2校を設定。モデル校のうち上越市立豊原小学校では「人権教育、同和教育を基盤とした開発的生徒指導」を、上越市立柿崎中学校では「学び合う授業のカリキュラム開発」を主題に設定し実践を公開。各校ではモデル校からの実践を学びつつ、自校の教育課程編成の工夫、改善に取り組んでいる。

【中越地区】

長岡市三島郡学校教育研究協議会では、県小教研「学習指導改善調査」の2年間の協力校として長岡市立神田小学校、長岡市立越路小学校より報告がなされ学習指導の充実発展に努めている。魚沼市教育研究会では、市教育委員会、市教育振興会、市中教育研究会と連携し「温かい学級づくり支援事業」を柱に年3回の講演会の開催、各校では年3回のQ U調査の実施と分析を行い、児童の心を育てる環境づくりを進めている。

【下越地区】

五泉市教育課程部会では、年3回の部会において特色ある学校づくりに向けた教育課程の編成・実施のため、市内小学校10校より情報提供と協議を行う。相互に学びながら教育課程の自校の改善に向けた取組の契機及び市全体の教育活動の充実を図っている。佐渡市教育課程部会では、ミドルリーダーとしての教務主任の職務と力量を高める研修会を開催。自校の教育計画の改善等に向けた立場の一人として、率先垂範の言動や管理職、職員間の連絡調整等の充実に取り組んでいる。

2 教育課程活動の課題

国では、次期教育課程への胎動が始まっており、学習指導要領の改訂が2016年度末、完全実施が2020年と見通されその動向を注視していかなければならない。各校が子どもたち、地域の実態に即し、学習効果を高めていくための特色ある教育課程編成に向けた取り組みを着実な実践と確かな成果として、今から積み上げていきたいものである。